

2022年作成

学習に困難がある子どもの 診断と支援②

～発達性読み書き障害を中心に～

愛媛大学名誉教授(教育学部)
(兼)愛媛県立子ども療育センター

長尾秀夫

全体の内容

I. 診断編

学習の困難から、発達性読み書き障害まで

II. 支援編

学習の困難から、発達性読み書き障害まで

III. 学習障害、その他編

IV. 書字障害の診断と支援編

V. 算数障害の診断と支援編

学習に困難がある子どもの 診断と支援

Ⅱ．支援編

学習の困難から、
発達性読み書き障害まで

目次

スライドページ

1. 発達性読み書き障害（DD）がある

子どもの支援のあり方

1) 子どもへの支援、及び実践例

— 5

2) 教員、学校の支援

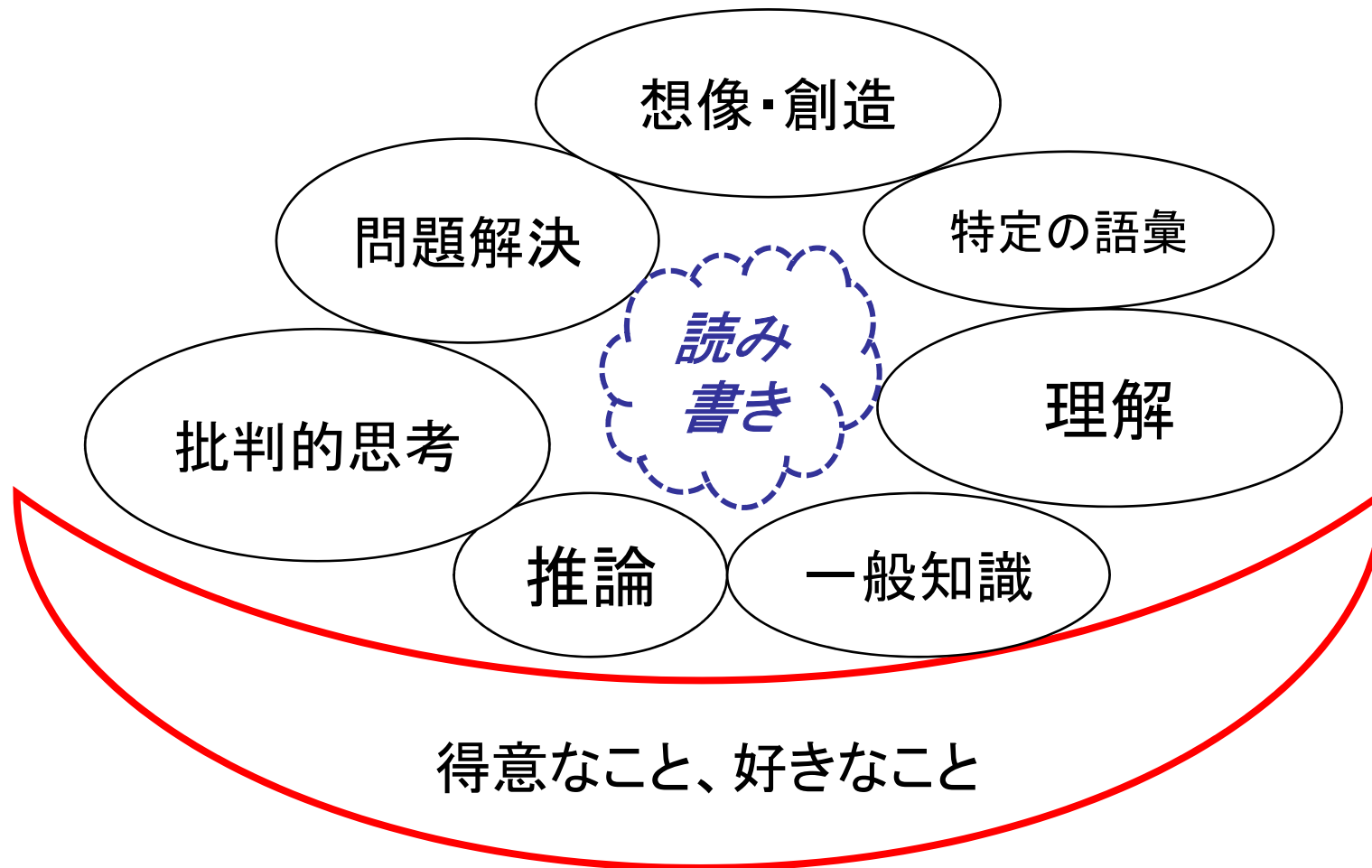
—48

2. 愛媛県におけるDD支援の現状

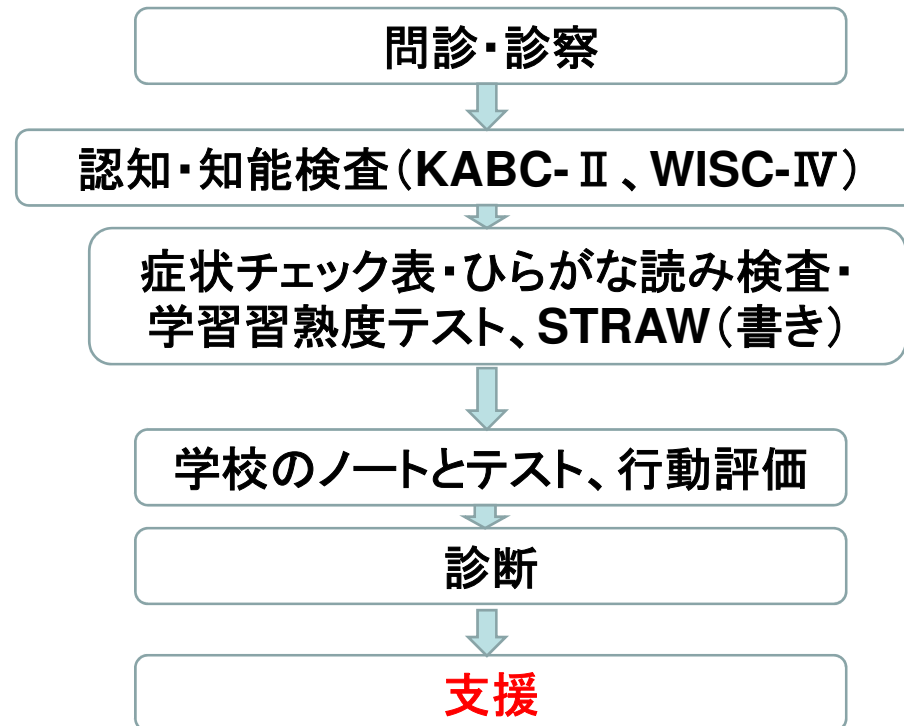
—64

1. 発達性読み書き障害(DD)がある
子どもの支援のあり方
 - 1) 子どもへの支援、及び実践例

発達性読み書き障害がある人、 「強みの海」モデル、得意で生きる



発達性読み書き障害 (DD) の診断・支援の現状



全人的支援:

- ・子どもの良さを伸ばす。(トッパアップ)
- ・心身の健康、コミュニケーション、行動・社会性、社会参加、学習、身辺自立を促す。

トッパダウン:

将来の習熟到達段階を予測して、生きる力につながる学習内容を精選する。生活を題材に学習する。

ボトムアップ:

習熟段階に合った達成可能な学習内容・量を精選する。一斉授業では今している学習とのギャップをヒントカード、助言等で補い、理解のために個別指導等を行う。
DDに特化した文字の音声化、語彙力指導を強化する。

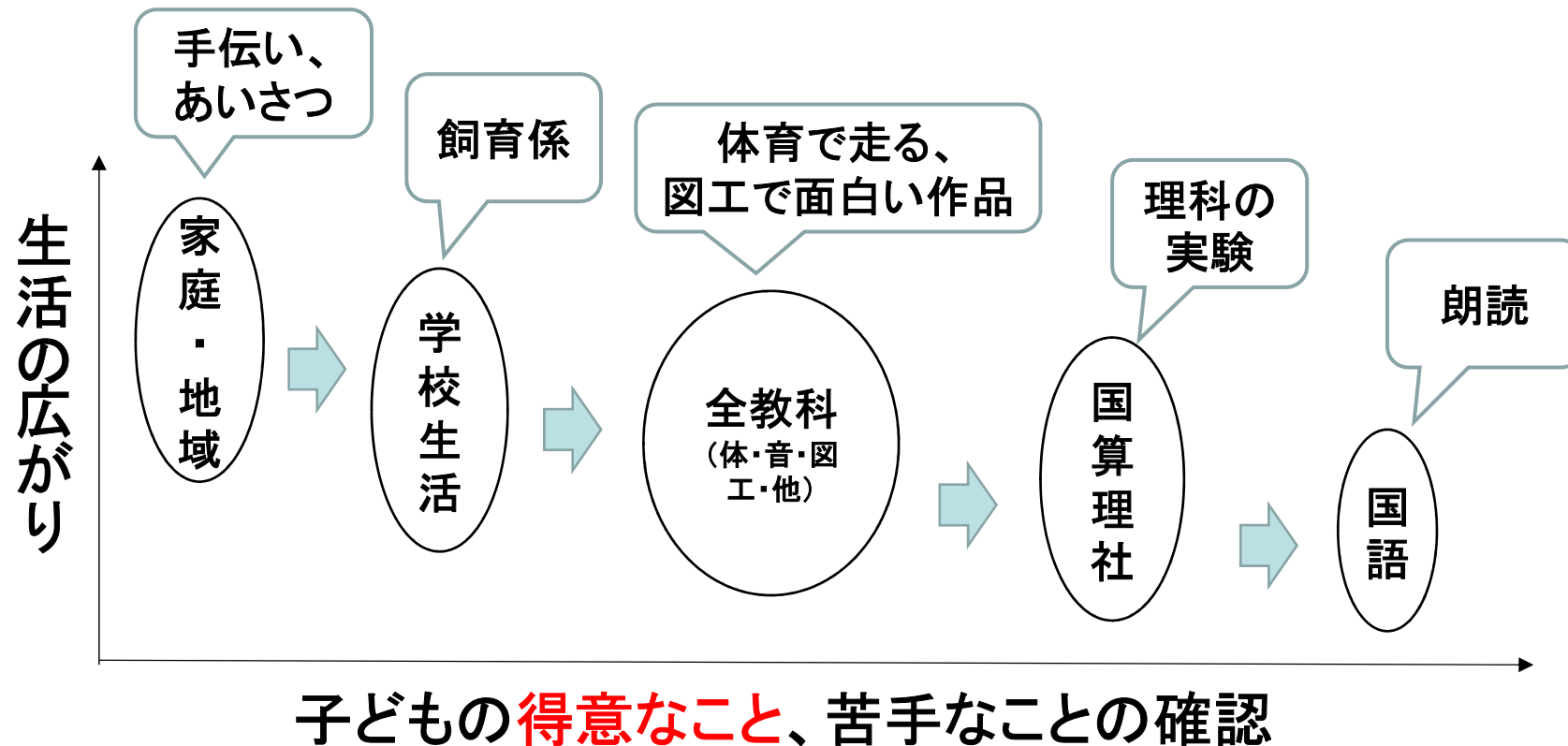
全人的支援：児童生徒の良さを伸ばす (トツプアツプを目指す)

- **健康**では生活のリズム、心の安定
- **コミュニケーション**では、自分からの発信、意志を伝える。
- **行動・社会性**では、対人関係を調整、集団参加を促す。
- **学習**では、初めに得意分野(教科)を伸ばし、苦手分野は必要最小限に精選する。
- **身辺自立**では、手伝いを通して将来の生活に役立つ自立を目指す。

全人的支援：児童生徒の良さを伸ばす

今できること？（能力）
今していること？（実行状況）

具体例：



得意な算数の習熟度(例)

小学5年生

トップアップ

算数修了問題の記入用紙
名:

年 組 氏

		1年		2年		3年		4年		5年		6年		
算数 単元	問題 番号	問題	回答	問題	回答	問題	回答	問題	回答	問題	回答	問題	回答	
		数 の 概 念	1-1①	○	1-1①	○	1-5	○	1-4	○	1-5全並	○	1-5全並	○
	1-1②	○	1-1②	○	2-1①	○	1-5①	○	1-5②	○	1-5②	○	1-5②	
	1-2①	○	1-2①	○	2-1②	○								
	1-2②	○	1-2②	○	2-2	○								
	1-3①	○	1-3①	○	2-3①	○								
	1-3②	○	1-3②	○	2-3②	○								
	1-3③	○	1-4①	○	2-5	○								
	1-4①	○	1-4②	○										
	1-4②	○	1-5①	○										
	1-4③	○	1-5②	○										
	1-5①	○	1-6	○										
	1-5②	○												
	1-6	○												
	2-2①	○												
	2-2②	○												
小 数 ・ 分 数								1-6①	○	1-7①	○	1-3①	○	
								1-6②	○	1-7②	○	1-3②	○	
								1-7③	○	1-7③	○			
								1-7④	○	1-7④	○			
								2-1①	○	1-7⑤	○			
								2-1②	○	2-1①	○			
								2-2	○	2-1②	○			
										2-1③	○			
										2-2②	○			
数 の 計 算	加 法 ・ 減 法	2-1①	○	1-7①	○	1-1①	○	2-3①	○	1-4①	○	1-1①	○	
		2-1②	○	1-7②	○	1-1②	○	2-3②	○	2-3①	○	1-1②	○	
		2-1③	○	1-7③	○	1-1③	○	2-4①	○	2-3②	○			
		2-1④	○	1-7④	○	1-1④	○	2-4②	○					
		2-1⑤	○			2-4①	○							
	乗 法 ・ 除 法	(2-3)	○			1-2①	○	1-3①	○	1-2①	○	1-2①	○	
		2-2①	○			1-2②	○	1-3②	○	1-2②	○	1-2②	○	
		2-2②	○			1-2③	○	1-3③	○	1-2③	○	1-2③	○	
					1-3①	○	1-3④	○	1-2④	○	1-2④	○	1-2④	○
					1-3②	○	1-3⑤	○	1-3⑤	○	1-3⑤	○	1-3⑤	○
計 量 法 則					1-4①	○	1-2②	○	1-3⑥	○	1-3⑥	○		
					1-4②	○	1-2③	○	1-3⑦	○	1-3⑦	○		
					1-6	○	1-6	○	1-3⑧	○	1-3⑧	○		
					1-7	○	2-4②	○	2-4②	○	2-2②	○		
					2-4③	○								
数 量 関 係					(2-1)	○	1-1②	○	1-1①	○	1-1①	○		
							1-1②	○	1-1②	○	1-1②	○		
文 章 題							(1-3①)							
							(1-3②)							
分 布					(2-4①)	○	(2-6①)			(2-4①)	○	(1-4①)	○	
					(2-4②)	○	(2-6②)			(2-4①)	○	(1-4②)	○	
										(2-4②)	○	(2-1①)	○	
										(2-5①)	○	(2-1②)	○	
										(2-5②)	○			
文 章 題	2-3①	○	1-6	○	1-3①	○	1-5①	○	1-5①	○	1-4①	○		
	2-3②	○	2-3	○	1-3②	○	1-5②	○	1-5②	○	1-4②	○		
			2-4①	○	2-6①	○	2-5①	○	2-4①	○	2-1①	○		
			2-4②	○	2-6②	○	2-5②	○	2-4①	○	2-1②	○		
			2-4③	○					2-4②	○	2-2①	○		

・計算を伸ばし、より高度な質と量に発展。

トップダウン

・文章題は将来の生活の内容。
(例)生活に必要な料理、お金の計算、小遣い帳、計算機の使い方等

ボトムアップ

・文章題は1~2年の内容。
(例)スゴロク、パズルです。
文章・単語・数字を興味や理解度に合わせて修正する。

苦手な国語の習熟度(例)

国語修了問題の記入用紙

氏名：

年 組

小学5年生

トップアップ

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	問題	答	問題	答	問題	答	問題	答	問題	答	問題	答
一 聞 く	1①	○	1	○	1	○	1	○	1		1	
	1②	○	2①	○	2①	○	2		2		2	
	2	○	2②	○	2②	○			3①		3	
	3	○							3②			
二 読 む	1	○	1		1①		1		1		1①	
	2	○	2		1②		2①		2		1②	
	3	○	3		1③		2②		3		2	
					2		2③		4		3	
					3		3		5		4	
三 書 く	1①	○	1		1		1		1		1	
	1②	○							2			
四 言 語 事 項	書く 1	○	書く 1	○	書く 1		書く 1		書く 1		書く 1	
	書く 2	○	書く 2	○	書く 2		書く 2		書く 2		書く 2	
	書く 3	○	書く 3	○	書く 3		書く 3		書く 3		書く 3	
	書く 4	○	読む 1	○	書く 4		書く 4		書く 4		書く 4	
	書く 5	○	読む 2	○	読む 1		書く 5		書く 5		読む 1	
	書く 6	○	読む 3	○	読む 2	○	読む 1		読む 1		読む 2	
	読む 1	○			読む 3	○	読む 2		読む 2		読む 3	
	読む 2	○			読む 4	○	読む 3		読む 3		読む 4	
	読む 3	○							読む 4			
	読む 4	○										
読む 5	○											

・聞き取りができており、集団の中で活用する。(例)本を読み聞かせ、質問に口頭で答える、自分の意見を発表する。書くのは代筆、録音、等

トップダウン

・読み書きは興味ある、絵や図が多い本。(例)漢字は会話や作文で使っているものから、ローマ字・英語も生活の中で見るものから。

ボトムアップ

・読み書きは1~2年生の内容。(例)興味関心のある本を音読する。平仮名で感想文を5W1Hの枠で書く。絵日記を書く。
・文字の音声化、語彙力の強化。

DD児者指導・支援の要点

(安藤、Jpn.J.Learn.Disabilit. 25:431、2016)を部分修正

NICHDの報告(NRP2000)によると、DDに対する科学的根拠に基づく効果的な指導に不可欠な5つの要素:

- ①音素・音節
- ②フォニックス
- ③語彙発達
- ④流暢性(音読技術を含む)
- ⑤読解方略

これらを、明示的、直接的、体系的に指導する。 12

①音素・音節

- ・**アルファベット**の大文字、小文字の双方の読み方(**音素:音**の最小単位)と形を知ることが読みと綴りの指導に必要。
- ・**音節**は、一定の時間的長さをもつ音の分節。**1の母音**をもつ**言語**の単位、1音節。音節は**話し言葉と書き言葉をつなげる役目**がある。
- ・音節認識は、就学前幼児の**運動**(階段上り、ケンケンパーなど)しながら**音節(モーラ・拍)**を**唱える、しりとり、逆さま言葉、ためき言葉**などの言葉遊びで育つ。

②フォニックス

フォニックスとは、英語44字の綴り字と発音との規則性をいう。これを学ぶと単語を正確に認識し、見慣れない単語も読む力を育てる。

文字の音声化 (例) a : b a g

綴り字・アルファベット読み エイ : ビー エイ ジー

発音・フォニックス読み あ : ば あ ぐ(ばっぐ)

・日本語では、特殊音節の習得に困難が伴うために、特殊音節の規則性を早期介入することが行われている。

例 : 促音～ら**っ**ぱ、長音～が**っ**こう、撥音～ほ**ん** : 1拍

拗音～きゃく、きゅうり、きょう : 前と合わせて1拍

③ 語彙発達

語彙発達として、単語の**意味を理解**することを指導する。

- ・語彙指導で大切にすべきことは、
 - 子どもの**興味関心**や**問題意識**から出発すること、
 - **実体験**や**日常生活**の中で子どもが**選択したトピックス**をテーマとすること、
 - 精選された**語彙リスト**を意図的・計画的に用意すること、
 - **動機付けを高め**ながら子どもの**主体的な活動**を繰り返す。

④ 流暢性

流暢性とは、文章を正確に素早く読み、単語を認識し、意味を読み取る能力である。

指導法は、指導者がお手本を示し、先生や仲間からフィードバックと励ましを受けながら子どもは音読する。

・具体的指導の手順：

①指導者が読み(範読)、子どもは話し言葉として理解し、②それを手がかりに、子どもは既知知識と結び付けて音読する、③うまく読めているかモニタリング(自分で、ICレコーダーで振り返る)をし、成功経験を持つ。

⑤ 読解方略

読解方略とは、**読んだこと**や**ものの意味**を理解するための方略である。

これにはメタ認知的方略がある。メタ認知とは、考えることを考えることで、自分の**読みのプロセス**を意識している状態。

- ・具体的には、子どもと**やり取り**して、**要旨をまとめる**
- ① **ストリート・マップ** (小分けして**図解**)、**グラフィック・オーガナイザー** (図や表などで**視覚的に**提示)、**意味論的オーガナイザー** (**意味のつながり**や**関係を視覚的に**提示)などで理解を助ける。
- ・仲間と**話し合い**、**書く機会**のある協働学習で**学習経験**を増やし、**記憶**を定着する。

発達年齢による指導・支援の重点化

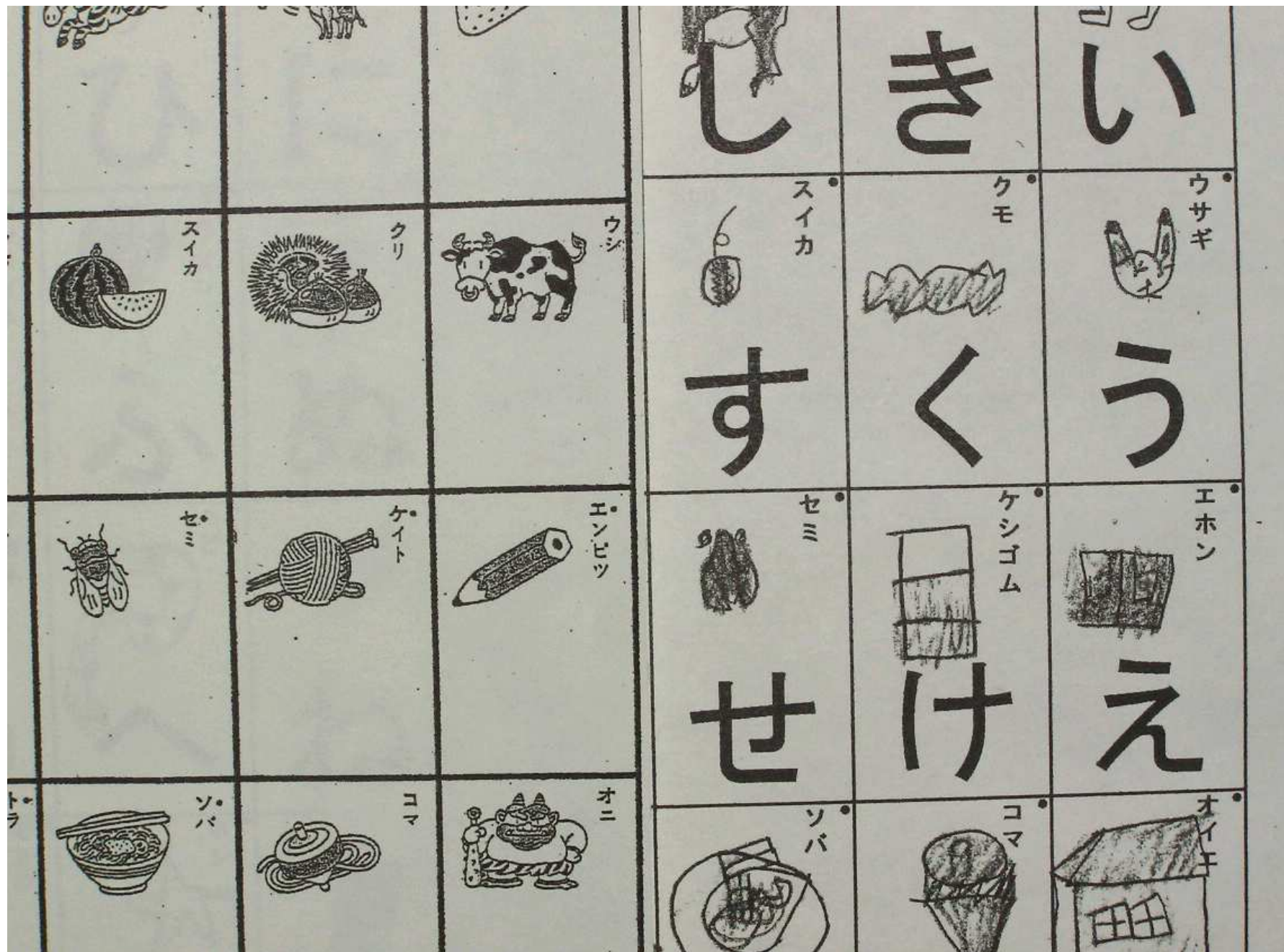
(IDAのHP,2022)

・NRP2000によれば、**就学前から小学3年生**までで、**音素認識**、**フォニックス**、**デコーディング**の要素が最も重要である。**文字の音声化**

・家庭・幼稚園・保育園では、**読み書きの経験**が必要である。特に**言葉遊び**。それに、話し合い、聞くこと、本を見ること、話し言葉の語彙、言語的推論、書字活動、**読みたい気持ち**を育てる。

記号と音との対応

- DDの子は友達や先生の名前が思い出せないことがある。
- 読む場合は文字記号から音を想起(デコーディング:音声化)できない。
- ➡ 音節認識を刺激するにはしりとり遊びが良い。
- ➡ 文字学習で絵付の五十音表は効果がある
- ➡ 平仮名が読めない時には、子どもに合わせて作成したフラッシュカードで練習する。
～毎回、目に見える成果を確認する。



新しい単語への対応

(Shaywitz, 藤田訳、PHP研究所、2006)

- ・上手に読むには話し言葉の語彙を増やしておく
- ・語彙を増やすには、単語を自分の経験と結びつけて考えられるようにしておく。
- ・教える単語は、子どもの経験から理解できる単語、生活に使える単語、役立つ単語を選ぶ。
- ・単語をカテゴリーに分けて覚えると、意味理解につながる。
 - 場所、動物、感情などを表す単語
 - 意味が反対の単語、など
- ・カテゴリー化で話し合うことは知識を活性化する。

語彙を増やす

- ・子どもの日常生活の中で出会った単語を覚え、一般的知識を習得する。
- ・語彙の指導は子どもが多くの例を知り、たくさん話し合う。また、単語の説明とともに絵や図で示す。
- ・子どもの語彙を増やすには、子どもの興味(スポーツ、ペット、車、宇宙、など)を機動力とする。
- ・子どもの“経験に伴って出てきた言葉に間違っただ答えなどない”という姿勢で、一緒に話し合う。

読解力を育てる3つのレッスン

「読み聞かせ」における3つの方法：

1. 本を開く**前**にすること
 - 本の中身(挿絵など)を**ざっと見る**。
 - **興味**と結びつけ、**予備知識**を**活性化**させる。
2. 本を**読みながら**すること
 - この後**どうなる**と思う？
 - 区切り、あらすじを**要約**させる。
3. 本を読んだ**後**ですること
 - 本の**あらすじ**を**説明**させる。
 - あらすじを**図に描いて**示す
 - それを**どう思うか**？

流暢に読むための方法

- 繰り返し読み(repeated reading)
- フィードバック付反復音読指導法(guided repeated oral reading: GROR)
 - ・・・聞いて、修正フィードバックする
- ペア読み(paired reading)
 - ・・・2人1組になって読む
- シェア読み(shared reading)
 - ・・・文章の一部を読む
- 呼応読み(echo reading)
 - ・・・教師の手本どおり読む

指さし
も併用

読みの負担の軽減

- 事前に教科書を読んであげて耳から聞いて理解させておく。
- わからない語彙を教えておく。
- 漢字に振り仮名を振る。
- 単語や文節の区切りに斜線を入れる。
- 手作りの録音テープを用意する。
- 電子辞書、携帯電話の利用を許可する。
- 別室で読み上げ試験を行う。
- 2行程程度の穴を開けた下敷きを利用する。
- 読みと関係ない活動、絵や工作、手芸、スポーツなどでストレスを発散しておく。

親が**流暢な音読**を育てる

子どもは2年生の半ば頃から流暢に読める。

そのために親ができること：**反復音読**を最優先に！

- ・音読を聞いてやる。できれば**毎晩**。1回の長さより**継続が重要**
- ・一緒に読み練習；**1晩10～15分**（少なくとも**5分**）。
親が、親子一緒に、子どもが一人で。
1段落、1頁、1章毎など。

- ・はじめに**少し読んで**同じ箇所を子どもに読ませる、一緒に音読するのも良い。
- ・同じ本を2冊用意して、読んでいる所を**指差し**する。

発達年齢による指導・支援の重点化2

- ・低学年は読むことが目的(learn to read)、
高学年では読んで新しい知識・技能・考え方を
身につける、習得する。(read to learn)
- ・語彙の発達は音韻の気づきと単語認識を促
進し、読解力にも影響を与える。
- ・単語認識が自動化すると、単語、文、文章が
流暢に読め、読むことに余分な注意の配分が
必要なくなり、意味理解がスムーズになる。

先程示した症例．小学2年生

受診・診断時年齢：小学1年3学期、男児A児。

きっかけは家族からの訴え。

精密検査：

1. 読み書きの症状チェック表 読み10項目に困難あり
2. 知能検査：F I Q 87, V I Q 84, P I Q 93
3. ひらがな読み検査：

①単音連続読み検査 時間71秒(+4.1SD)、飛ばす22個、
誤答数6個(+2.6SD)

②単語速読検査

i. 有意味語 時間83秒(+6.4SD)、誤答数14個(+8.7SD)

ii. 無意味語 時間78秒(+1.8SD)、誤答数17個(+4.5SD)

③短文音読検査 時間48秒(+11.0SD)、誤答数8個(+6.6SD)

4. 学習習熟度テスト（国語・算数）

国語：聞く、読むはできず。漢字の読み2/5、書き3/7。

作文「（おんなのこが）じれんしでどこかにいつています。」

算数：文章を読まずに、数字を組み合わせて解答して大部分できる。²⁸

支援方法

個別支援:

放課後30分程度の支援 2回／週

(絵日記指導10分、絵本読み10分、その他10分)

「絵日記」

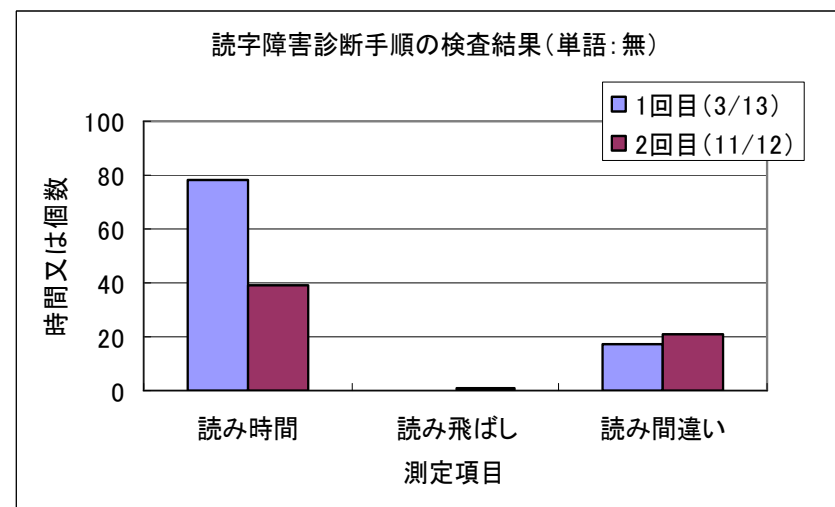
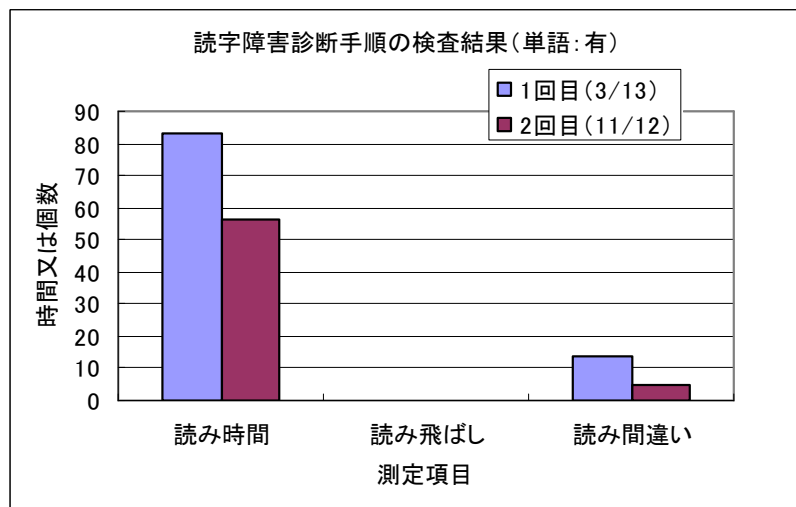
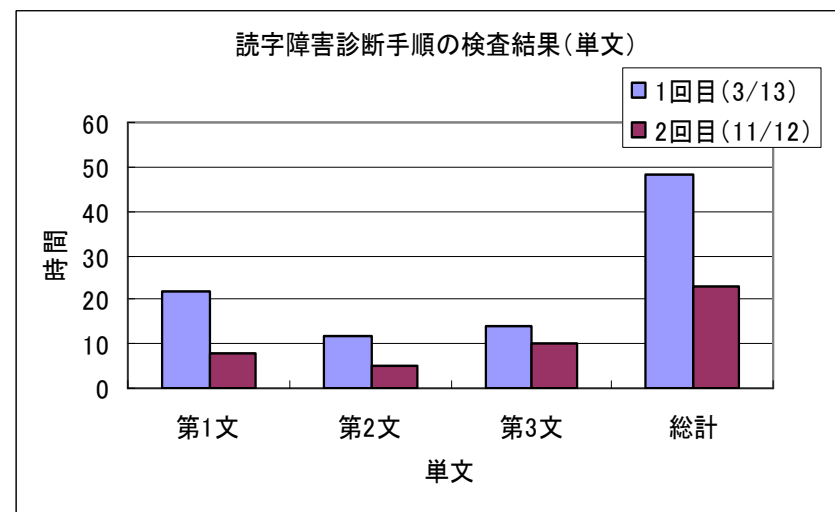
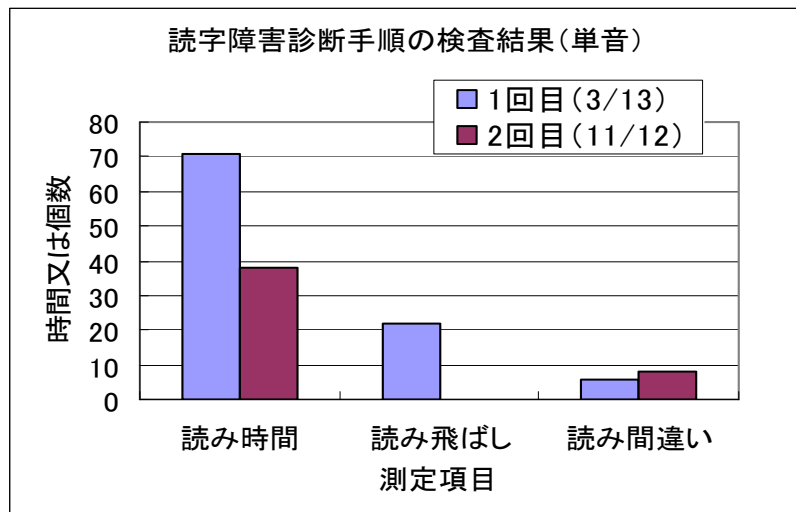
宿題として出し、**新たに**できた部分をほめ、書き間違い等の修正をする。

「絵本読み」

- ・A児の**興味**の高い読みものを選択する。
- ・一度に読む字数は60字程度とする。

毎回、ICレコーダーを準備し、読む速さを計測する。 29

事例1. 小学2年生:時間の短縮



音読訓練用ひらがなフラッシュカード(例)

(表)

きや

(裏)

きやべつ

(絵、写真)

音読練習：フラッシュカード(短文の見本)

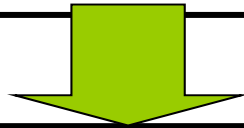
じんじゃで かくれんぼを したよ。

クワガタムシの ようちゅうを
そだてている。

事例1. 絵日記指導の推移

5月7日 (指導前)

ぼくは いえに いぱい かぶとのようちようが います。
いつのきのきうおいています。もうちよと はやく せいちよ
うしたら いいなー。(正:いっぱい、ようちゆう、いつも、ぼう、もうち
よつと)



10月4日

目標:N児設定→漢字6個、「っ」、「ゝ」、「°」

ぼくは、**土**日**曜**日にお**母**さんと おはかまいりに いき
ました。 **そ**う**じ**をしました。

ほうき**で** は**っ**ぱを はきました。お**花**が きれいに なり
ました。

私の考えるDDの指導・支援の要点

本人が学習面で習得すべきこと:

1. 文字の音声化

~~~~音読する!

## 2. 語彙力をつける

~~~~身近な、よく聞き・話す語彙を学ぶ!

環境で整えるべきこと(合理的配慮):教材+

1. 読めない漢字に振り仮名(ルビ)をつける。
2. 時間延長をする。
3. 問題を代読する。
4. 拡大教科書、プリントを使う。
5. パソコンによる入力・出力を使う。

小学1, 2年のDD児の支援

読む:

○一文字ずつのたどり読み(逐字読み)が続き、内容が理解できない。

～読める単語を、興味や難易度・親密度を考慮して一つずつふやす。

○飛ばし読みや勝手読みが多い。

～指で押さえて、音読する。

○拗音・促音が読めない。

～知ってる単語で読み方の確認(思い出し)をする。

○文字と音を関連づけることができない。

～興味関心、難易度、親密度の高い単語で関連づけの練習をする。(フラッシュカードなど)

小学1, 2年のDD児の支援 2

話す:

○似たような語と間違えて言う。

～基本1:「今、～ができる」から、「次、～する」とできそうなことする。内容は興味、難易度・親密度で選ぶ。

○名前が出てこない。

～基本1。一つずつ出る名前をふやす。

書く:

・読むだけでなく書くことは更に大変で、連絡帳を書くことができない。

～基本2: できる質と量を話し合って決める。継続し、発展させる。

小学3-6年生のDD児の支援

読む：

- ・単語によって読み方が変わる漢字が読めない。青空・
空気
- ～基本1:「今、～ができる」から、「次、～する」とできそ
うなことを。読めてる漢字を確認し、興味で発展を。
- 読み飛ばし、読み間違いが多い。
- ～指で押さえて、音読する。
- ・見慣れない言葉や文章の区切りが分かりにくい。
- ～基本1。分からない言葉、文は音読して区切る。
- 簡単な文は読めるが、学年レベルの文章は困難。
- ～基本2。できる質と量を読み、後は代読する。
デイジー教科書など読み上げ教科書を活用する。
- 読むスキルの習得が非常に遅い、疲労を感じる。
- ～基本1、基本2で読む量を調整する。

小学3-6年生のDD児の支援 2

読む：続き

- **正確さ**は改善するが、**流暢さの困難が続く。**
- ～ **読み検査、学習習熟度テスト**などを用いて、習得できる質と量を厳選する。

話す：

- 長い複雑な単語の**発音を間違う。**
- ～ 基本1で、興味や難易度・親密度を基に選ぶ。
- 質問されて答えるのに、**時間がかかる。**
- ～ 答え方のパターンを作る。

書く：

- **平仮名と片仮名の使い分け**、平仮名主体の文章になる。
- ～ 基本1、基本2で習得可能な内容を選ぶ。

中学・高校・成人のDDの支援

読む：

○ **すらすら読めない**、読むと極端に**疲労**する。

～基本1、基本2で読むものを調整する。

○ **独特の単語**の発音に苦勞し、「**あれ**ください」となる。

～話し方のパターン化を図る。もちろん、図や絵、身振りも活用。

・ **図やグラフや写真の入っている本、文字数が少ない本**を好む。

～自分がわかりやすい本を選ぶことをほめ、体験を増やす。

・ **読めない単語があってもストーリーを追え**、読み困難の自覚はないこともある。

～本人が期待通りの成果を上げていない場合は、まず音読をさせて内容を質問する。次に、代読して同じ質問をし、自分の困難に気づかせる。そして、**学び方、支援があることを教え、自分からそれを求め活用する方法を練習する。**

○ **細部を正確に読めない**ので、**学習意欲が持てず、進学も困難**となる。

～**学び方、支援があることを教え、自分からそれを求め活用する方法を練習する。**

中学・高校・成人のDDの支援 2

話す:

○人名や地名の発音を間違える、単語の一部が抜ける。

～基本1で、一つずつ正確にしてゆく。

○質問につまったときに流暢にしゃべれない。

～話し方のパターン化を図る。もちろん、図や絵、身振りも活用。

書く:

○英語のスペルと読みが困難である。ヒアリングはできることもある。

～興味を通して、歌やヒアリングなどから入る。意欲が出ればフォニックスの活用も入れるといい場合がある。

・機械的な事務作業の効率が悪い。

～作業のパターン化を図り、新たな読み書きを限定する。

青年期・成人期

(依田、Jpn.J.Learn.Disabilit. 8:83、2000の抜粋)

ディスレクシアと後期中等教育:

読み書きが特段に必要とされない進路を選べば、不適応を克服し、自信を取り戻せる可能性がある。

体験を通して学ぶ専門教科は、子どもも教師も競争的価値観から解放され、本来の学習が成立する。職業高校は考慮に値する。また、アルバイトは「できる自分」を自覚し、自信を取り戻す機会となる。

青年期・成人期 2

親が子どもの特性を**受容**すること：**全人的価値**

子どもの生活は24時間学校を中心に回っており、家族の生活も同じ「**学校的価値**」に支配されており、「**学校化社会**」となっている。

親が子どもの**特性を理解・受容**することは「**学校的価値**」の**呪縛から解放**たれること、**学歴、世間体**などを捨て去ることになる。

そして子どもの**現実**を受け入れ、**特性**を認め、**子どもがどういう風に生きてゆくか**と将来を見据えた**選択**をする。学力の物差しを脱却する。

青年期・成人期 3

職業選択と社会自立:

子どもが「**個性的な成人**」として、**社会的に自立**することを目指す。

仕事の場で不得意ではない部分で能力を発揮し、「**やればできる**」自分を発見し、**自信**を取り戻す。そこで自分自身について**正しい洞察**をすることができ、ディスレクシアについても**正しく認識**する。その自己洞察で**積極的な職業選択**をする。

青年期・成人期 4

職業選択と社会自立： 2

アルバイト等で、まず「**やってゆけそうだ**」、
職業について「**やってゆける**」と自信つけ、
仕事に積極的にになると**主体的な学び**をする。
仕事で必要な**メモ**を取る、筆記試験で**資格**を取るなど。

職業選択とは、**なろうと思う仕事**に向けて、**自分を形成していく**ことである。

DDに関連する社会的・情緒的問題 (IDAより)

・DD児は求められる読み技能が自分の技能を上回り始めると欲求不満を高める。

その結果、

1) 不安・恐怖

2) 怒り

3) 貧弱な自己イメージ(自分を愚か者)

4) うつ病(怒りの感情を自分自身に向け)

5) 社会的問題: コミュニケーションがうまく取れず、物事の順序が覚えられず、混乱して嘘をつく

6) 家族の問題: 兄弟間で嫉妬、親子間で追体験

DDに関連する社会的・情緒的問題 (IDAより)

社会的・情緒的問題への対処：**励ましと支援**！

- 1) DD児の**気持ちを聞く**。話すのを助ける。
- 2) DDは**脳の配線**が異なるだけで、愚かや怠けの結果ではない。
- 3) DD児の**努力**をほめる。
- 4) DD児の反抗的または回避的行動を見ても**責めない**。
- 5) DD児が現実的な目標を設定するのを助ける。
- 6) DD児が自分の強みを築く活動に参加するのを勧める。
- 7) DD児が他の人を助けるボランティア活動、幼い子や動物の世話など自信をつける。

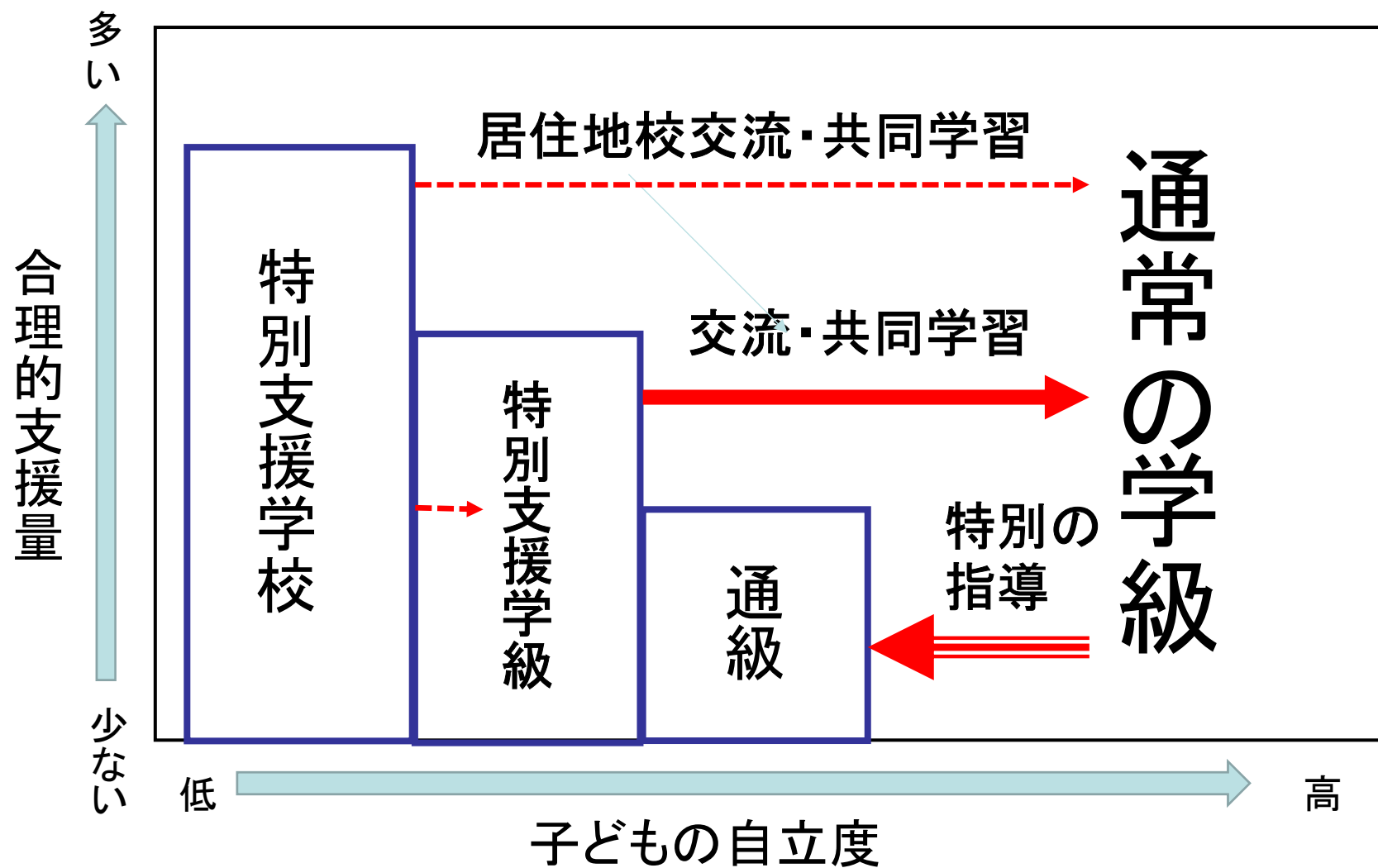
DDに関連するストレス脱却 (IDAより)

DE-STRESSモデル:

1. DD児にその子の困難を説明し、理解させる。
2. DDが学校、社会生活へ及ぼす影響を本人に説明する。
3. DDがあるゆえに直面する課題を予測する。
4. DD児に成功を最大化、失敗を最小化する方法を教える。
5. DDゆえに生じる課題を最小化する学習環境、社会環境を作成する。
6. 身体活動を定期的に活発にする。健康な食事も。
7. 習得したことを表示し、成功を体験をする豊富な機会をもつ。
8. 継続的な成功の可能性が高い将来計画を立てる。
9. ヨガ、瞑想、バイオフィードバック、認知行動療法、投薬なども一つの方法。

1. 発達性読み書き障害（DD）がある
 子どもの支援のあり方
 - 2) 教員、学校の支援

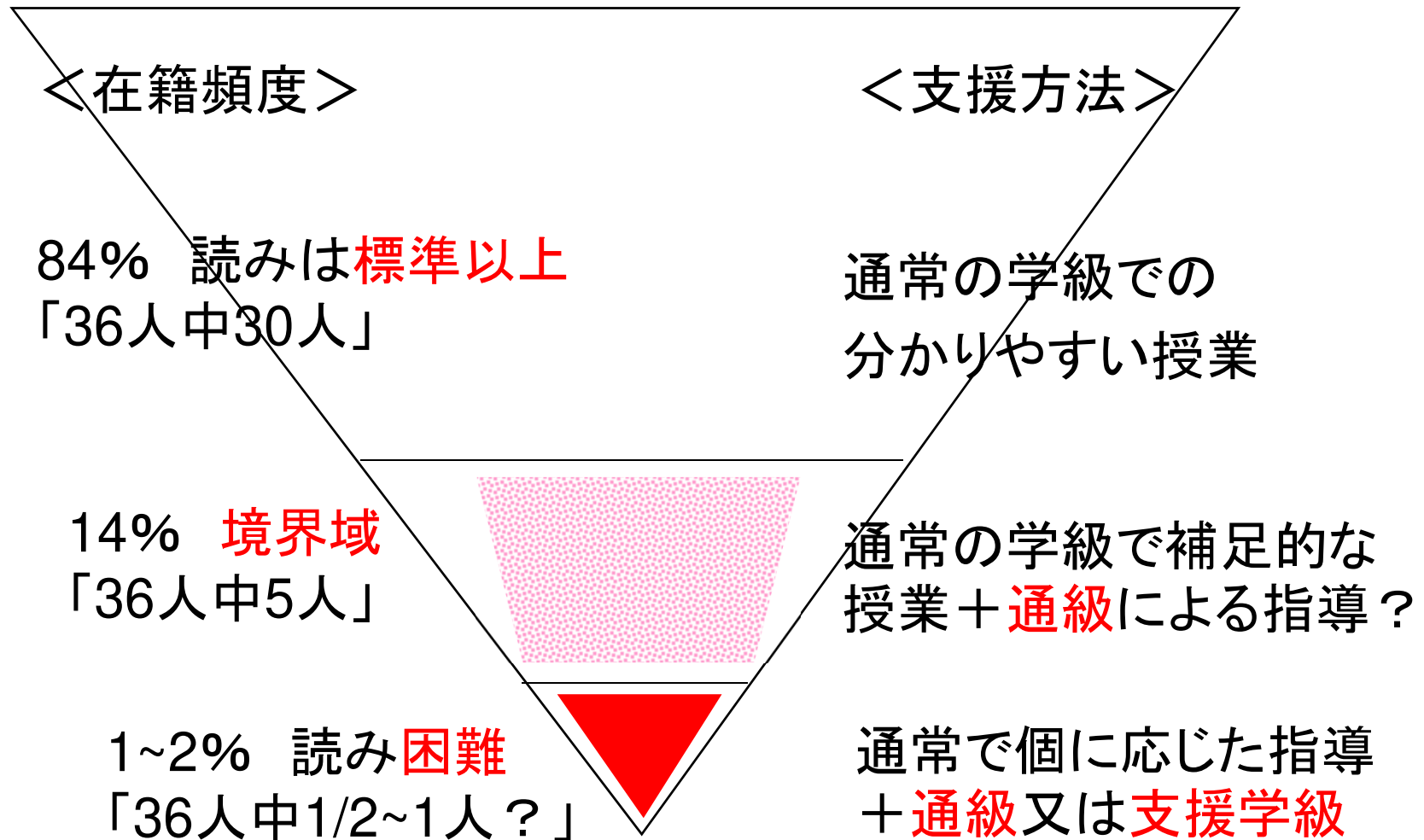
インクルーシブ教育



RTI (Response to Intervention)

- ・RTIはアセスメントと介入を統合した取り組み。米国で長年研究されてきた。学習と行動に特別なニーズ (SEN) がある子どもに対して、通常の学級で早期に発見・支援を行う多層的なアプローチ (MIM) である。
- ・「すべての子どもは種であり、その種は教育によって大きな木に育つ可能性を持っている。」教育者は、SENのある子どもの明るい未来、自己実現できる未来に向けて可能な限りの支援を行う義務がある。

読み能力の分布



文部科学省の基本的考え方

小学校学習指導要領解説(総則編) H29年

◎学校教育の「**不易**」として、

一人一人の児童が自分の**よさ**や**可能性**を認識できる**自己肯定感**を育むこと。

特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編)

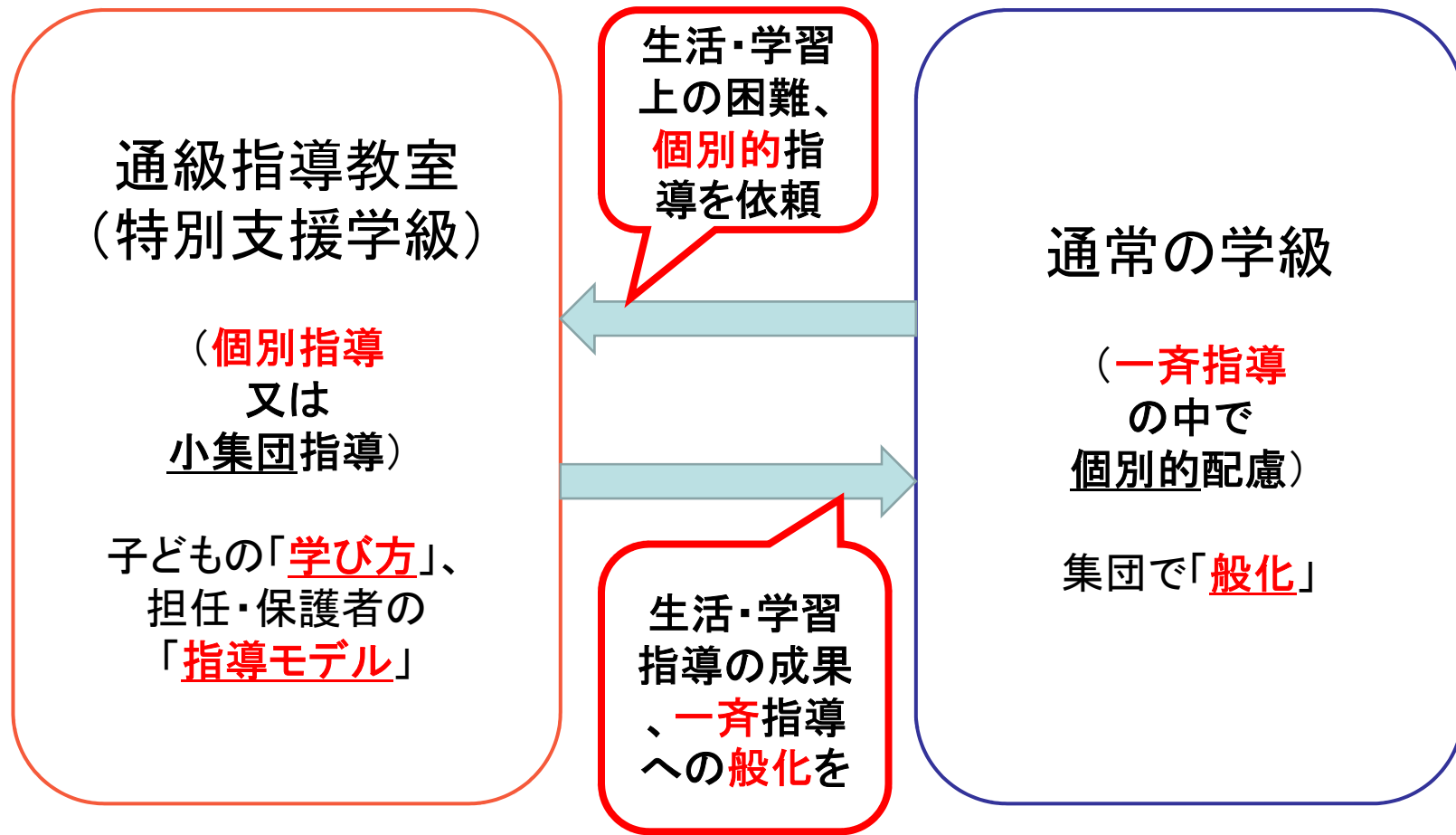
H21年

2 **指導計画**の作成手順「具体的な指導内容」

ウ：**遅れている側面**を補う指導内容：

◎**進んでいる側面**を更に伸ばし、**遅れている側面**を補う。

通常の学級と通級指導教室・特別支援学級の連携



発達性読み書き障害に対する 特別な指導プログラム(通級)～45分の授業(案)

1. **前回**の読みの復習(3分)

今週の楽しかったことのお話し(3分)

2. **得意な教科**の発展(10分)

算数、理科等の授業の復習、発展

テストで確認(3問)～＋評価(3分)

3. **国語等**の読み書きをする(15分)

休憩:2分

国語等(お話の本)の授業の復習、発展

テストで確認(3問)～＋評価(3分)

4. 授業(2・3)の振り返り(2分)

休憩:2分

5. 連絡帳(担任、保護者に連絡) (2分)

学習したテストやノートを**持ち帰らせる**。

特別な指導プログラムの内容(例)

2. 得意な教科の発展

算数、理科等の授業の復習、発展

(例) **トップアップ**: <よりよくできる目標>

現状を踏まえて、「良さ」をさらに伸ばす目標、
子どもの興味関心の世界で自主的な課題を学ぶ。

3. 国語等の読み書きをする

国語等(お話の本)の授業の復習、発展

(例) **トップダウン**: 将来の「生活」に活用される目標

ボトムアップ: <次にできそうな目標> 現状を踏まえて、「困難」の中で次にできそうな精選した目標
～習熟度テストを参考に子どもが8割以上できる課題から始める。子どもが**興味関心**あり、今後**活用**する内容で、**達成可能な内容と数量**を調整する。

教育支援の7つの工夫(学校・教室)

(目標)

①**学習内容の工夫**…(例)興味関心に合わせる

(方法)

(A)環境の工夫

②**集団構成の工夫**…(例)人数(集団～個別)

③**学習の場の工夫**…(例)広さ、配置

(B)支援方法の工夫

④**教材/教具の工夫**…(例)わかりやすい教材
(一人ひとりの教科書)

⑤**かかわりの工夫**…(例)わかりやすい言動
(一人ひとりに合った声かけ)

⑥**提示の工夫**…(例)わかりやすい手順、計画
(一人ひとりに合った提示、手順、計画)

(評価)

⑦**成果のわかる工夫**…(例)具体的成果が見える
(教材/教具、コミュニケーション記録)

通級担当者の基本姿勢

*「今、自分は何を教えようとしているか」常に自らに問いかける。

～目的に合わせて指導を調整する。

*学校教育の「不易」を実践する。

～児童生徒のよさや可能性を育て、自己肯定感を育てる。

◎少人数や個別で子どもに合った「学び方のモデル」を創り、通常の学級で般化できる「指導のモデル」を具体的に通常学級担任に伝える。

各教科の内容を補充するための特別の指導

- ・通常の学級における指導内容との連続性

1 児童生徒の興味関心と内容の難易度により、在籍学級で行っている学習内容を1~2に限定し、指導する。

2 児童生徒の発達、習熟段階、興味・関心、生活や学習環境などの実態に合わせ、達成可能な学習内容を精選する。

- ・優先すべき指導項目や指導内容の設定の工夫

3 児童生徒の得意分野を伸ばす内容と困難を改善・克服する内容を指導する。

各教科の内容を補充するための特別の指導2

- ・学習項目、学習内容、学習活動の設定

1つの授業時間の中に、いくつかの学習のまとまりを作る。

それぞれの学習のまとまり毎に、(前)前回の復習、(中)新しい課題の学習、(後)その習得の確認、この前中後をセットにする。

復習と確認は確認テスト等で記録に残す。

教室での対策 1. 教材等

(IDA:教室の中のDDより)

1. 書面による指示を**明確化**又は**簡素化**する。(下線)
2. **少量**の課題を提示する。
3. 無用な**刺激**を遮断する。(小グループ、別室)
4. 重要な情報を**強調**する。(矢印、色分け)
5. 消耗品の**プレースホルダー**を使用する。
6. **追加の練習**活動を提供する。
7. 内容領域の**用語集**を提供する。
8. **読み案内**を作成する。
9. **録音**装置を使用する。
10. **支援技術製品**を使用する。(電卓、電子辞書、スペルチェックソフト)

教室での対策 2. 双方向指導

(IDA:教室の中のDDより)

1. 明示的な指導方法を使用する。(手順)
2. 指示を繰り返す。(メモ帳、デジタルメモ帳)
3. 日常業務を維持する。(構造化)
4. 授業ノートのコピーを提供する。(拡大テキスト)
5. 生徒にグラフィックオーガナイザーを提供する。
6. 一歩ずつの指導をする。
7. 言語と視覚の情報を同時に組み合わせる。
8. 黒板／ホワイトボードに要点や単語を書く。
9. バランスのとれた発表と活動を行う。
10. 記憶指導を行う。
11. 毎日の振り返りを強調する。

教室での対策 3. 成績等

(IDA:教室の中のDDより)

1. 応答形式を変更する。(代替解答、マーク等)
2. 授業の概要を提供する。(順序)
3. 生徒を教師の近くに配置する。
4. 課題の本やカレンダーの使用を奨励する。
5. 数学のために縦線の罫線入り用紙を使う。
6. 階層学習帳を設計する。
7. 学習見本を表示する。
8. 仲間を介した学習をする。(グループ学習)
9. 柔軟な学習時間を使用する。(時間延長)
10. 追加の練習を提供する。
11. 課題の置換又は調整をする。

読み障害の支援 (IDA: 教室の中のDDより)

構造化された読み書き障害の支援:

1. 音韻論～言語音の最小単位(音素)
2. 音—記号の関連付け～フォニックス
3. 音節の指導～1つの母音の言語単位
4. 形態学～形態素は言語の意味の最小単位
5. 単語・語彙
6. 構文～単語の順序と機能の原則、文法等
7. 意味論～意味に関する言語の側面

これらを①体系的かつ累積的(ボトムアップ)②明確

な指導(その場で出来る)③診断的教育(自動的にできる評価) ⁶³

2. 愛媛県におけるDD支援の現状

読み書きに困難がある子どもの支援(愛媛案) 1

平仮名の読みが困難(小学1年頃):

- ・DDの診断がつけば、音読訓練ソフト(又は、自作のフラッシュカード)を約3ヶ月行う。定期的に読み検査をする。支援は「あいゆう」のHPを参照する。

- ・その後、継続して家庭・学校で読み書きに配慮した指導を行う。得意なことを毎日誉める。

- ・学習上の困難があれば、

★1 通級による指導(合併症があれば特別支援学級も)を「学習障害」の枠組みで受ける。

★2 学習・支援の成果を子ども療育センター等で読み検査・学習習熟度テスト等定期検査を、学期・学年毎に行って評価する。

読み書きに困難がある子どもの支援(愛媛案)2

長い文章の読み書きの困難(学年が上がって):

- ・DDの疑いがあれば、**読み検査・学習習熟度テスト**等の検査を行う。**得意なことを毎回確認し、誉める。**

明らかな困難があれば、**①通級による指導**(合併症があれば**特別支援学級**も)を受ける。また**②子ども療育センター**とも連携して支援する。

- ・支援方法は「**あいゆう**」のHPを参照する。

- ・困った時には、ためらわず**人に聞く**態度を育てる。

- ・学習には**図や絵の多い参考図書**を使う。**デイジー教科書**などの読み上げ教科書、拡大教科書、家庭や学校で自作の教科書等の読み上げ録音(ICレコーダー)等を使う。

- ・**学習内容**を子どもの状態に合わせて**精選**する。

小学国語の支援例

- ・ヒントカード作り、授業の構成・展開
～詳細は「読み書き算数の困難がある
子どものへの指導—教材づくりのヒント・
例—」を参照。

- ・(例) 抜粋

1. ひらがな読み
2. 漢字の書き
3. 作文
4. 文章読解

1. ひらがなの読み

- ・ひらがなの読みの**到達点**を知る。
～**五十音表**で読めるものに**丸**をつける。
- ・子どもが**知っていることば**、**よく使うことば**で未だ読めないひらがな1文字について学習する。
1時間では2~3文字までにおさえる。
- ・毎回、**前回の復習**をして確認する。覚えていたら透明な宝箱に入れる。
- ・**数回**貯まれば、すでに読める字と一緒にまぜて、読みを確認し、読めると**五十音表**に**丸**をつける。

授業(学習)の基本枠

| | |
|----|---|
| 上段 | ・「きゃ」を読む。
学びの ポイント (ことばの親密度を生かす) |
| 中段 | <u>授業の展開</u>
①「きゃ」がつく言葉を集める。
②平仮名に書いて、フラッシュカードを作り、読ませる。
③「きゃ」のつく単語を使った文章を作る。
④書いた文章を読ませる。 |
| 下段 | <u>確認問題</u> (1~3問)
・「きゃ」「きゃべつ」「おきゃくさん」のフラッシュカードを読ませ、ほめる。 |

2. 漢字を覚える

ひらがな同様に、読める・書ける漢字の**到達点**を知る。～学年別漢字配当表も参考に。

漢字の読み：

学習は、子どもが**親しみ**のある、会話や作文で**使う**言葉の漢字から始める。

漢字の書き：

子どもの記憶力により、

同じ漢字**1字**を、口で**唱えながら**、**5~8回**繰り返し書く。**熟語**と共に覚えると使える。(例)

・・・基本的な学習法。その子に合わせて！

授業(学習)の基本枠

| | |
|--------|--|
| 上
段 | 「湖」、湖面の湖を書く。
<u>学びのポイント</u> (親密度・子どものやり方) |
| 中
段 | <u>授業の展開</u>
①1枚目:覚える漢字の読みをひらかなで書く。
②2枚目:唱える言葉を書く。(部首も入れ)
③3枚目:漢字1字を5~8回唱えながら書く。
横に、熟語を唱えて3回書く。
~「湖」のつく熟語を出し合い、書く。
④4枚目:まとめで唱えて1回書く、
間違えばさらに3回唱えて書く。
⑤5枚目:次回の授業で初めに1回復習する。 |
| 下
段 | <u>確認問題</u> (1~3問)
・例:「湖」、湖面等数問を唱えて1回書く、間違えば、さらに3回唱えて書く。 |

3. 作文をする(書く)

- ・はじめに、楽しかったこと、今日したことなどを自由に話させる。
- ・「では、先生が質問するので答えてね」と言って、いつ、どこで、だれが、なにを、どうした、なぜ、きもち、を順番に聞いて、それを話させる。
- ・「いまのお話を書くので、もう一度順番に話してください」と言う。最初は先生が、慣れると子どもが枠・短冊に書く。
- ・書いたものを子どもが続けて読む。
- ・「よく読めました。原稿用紙に書いてください」
- ・書けた作文を読んでみましょう。

授業(学習)の基本枠

| | |
|----|--|
| 上段 | 作文を書く。
学びの ポイント (基本形の枠を使って) |
| 中段 | <u>授業の展開</u>
①書きたいことを話す。
②いつ、どこで、と順番に聞く。
③話したことを書く(子どもが書く?)
④書いた文字を続けて読む。
⑤原稿用紙に言いながら清書する。
⑥清書したものを読む。 |
| 下段 | 確認 問題(1問)
・書きたい別のことを話す。
・基本枠を使って書き、原稿用紙に清書し、読む。 |

4. 文章の読解

- ・子どもに合った**短い、わかりやすい**文章から始める。(ひらがな、分かち書きなども考慮)
- ・子どもが**好きな本**、絵本などを活用する。
- ・**音読**から入り、子どものペースで読ませ、はじめは修正しない。わからない文字があれば読み方を教えることも事前に伝えておく。音読後によく読めた部分を具体的に**褒める**。
- ・子どもの**指導に合った文章**が選べたら、その全体を**音読**させ、内容を**話し合った**あと、**一文**ずつ内容を確認する。

授業(学習)の基本枠

| | |
|--------|--|
| 上
段 | 文章読解：
<u>学びのポイント</u> 「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」の基本形を探す。 |
| 中
段 | <u>授業の展開</u>
①文章を音読する。
②大切な言葉に線を引く、丸をつける。
③一文ごとに基本形を探し、不足(省略)部分を補う。
(・必要なら、基本形の順番に並び替える。)
④自分の言葉で説明する。身振り、図を描く。 |
| 下
段 | <u>確認問題</u> (1問)
・文章題の例題を基本形に当てはめる。線を引く、丸をつける、図を描く。 |

「国語の読解力を育てる支援」

理解がむつかしい場合、下記を子どもがする。

出来なければ支援者がして手本を示す。手本のヒントカードを準備しておく。

1. 問題を正しく音読する。
2. 大切な言葉、分かりにくい言葉、表現に印をつける。(問題文に書き込む、汚す)
自分で調べる。わからなければ、自分から質問する。
3. 場面を理解する。
主語－述語を探す。全体を「いつ、どこで、だれが、どうした」の5W1H構成でワークシートに書く。難しければ、段落毎に。それで難しい場合は文毎に。ワークシートに書けない時は支援者が一つずつ質問し、回答後に書く。
4. 文章どおりにロールプレイ(やりとり)をする。
5. 登場人物の気持ちを話し合っ、考える。
心情語に傍線を引く。
6. 大切な言葉を書き出して図示する。
繰り返し出てくる言葉に注意する。
7. 答を書く。

人に教えること？

「やって**見せ**、

言って聞かせて、

やらせてみ、

褒めること。」

例題見本
1頁に！

例題の
確認テスト

また、自分らしくできる？ ~~~ 個性的とは？

守



破



離

基本のパターン化

参考文献

- 1) Overcoming Dyslexia Sally Shaywitz, M.D. 著、2003
「読み書き障害のすべて」—頭はいいのに、本が読めない—
訳：藤田あきよ、監修：加藤醇子、PHP研究所、2006
- 2) 特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン
—わかりやすい診断手順と支援の実際—
稲垣真澄編著、診断と治療社、2010
- 3) IDA
<https://dyslexiaida.org> (2022年4月6日閲覧)
- 4) LDAA
<https://ldaamerica.org> (2022年4月6日閲覧)
- 5) 国語の学習習熟度テスト(小学校1～6年)
算数の学習習熟度テスト(小学校1～6年)
長尾秀夫、愛媛大学教育学部長尾研究室、2009
(問い合わせ：愛媛県立子ども療育センター)

謝辞

本研究にご協力いただきました、対象児、保護者の皆様に深謝申し上げます。

また、本研究にかかわる繁雑な外来の調整をしていただきました小児科外来、各種検査をしていただきました発達障がい者支援センター「あいゆう」、心理検査室、リハビリ関係の皆さんにお礼申し上げます。なかでも、読み検査・学習習熟度テストを担当していただきました「あいゆう」の皆さんには重ねてお礼を申し上げます。本研究・診療は**多職種の子ども療育センター全職員**の専門分野における協力の賜物です。

* **HP**は、「**愛媛県**」「**あいゆう**」検索で開き、研修の学習支援をご覧ください。